新潟県自殺予防教育プログラム（小中学校編）

ＳＯＳの出し方に関する授業 Step３　学習指導案（小中学校編）

１　ね ら い：　相談を受ける場面の練習をとおして、共感的にかかわる方法と大人につなげる必要性について理解し、上手に相談を受けられるようになる。

２　対　　象：小学校高学年、中学１～３年生

３　使用教材：□ワークシート「相談を受けたらどうしよう？」

□教材動画「相談を受けたらどうしよう？～上手な相談の受け方～」

□黒板表示「ロールプレイのポイント！」

□プリント「相談窓口一覧」

□相談に関する１分間アンケート（授業の前日までと、翌日以降の２回実施）

４　評価規準：相談を受けたときの上手な対応方法を理解し、今後に生かそうとする態度が見られた。

５　本時の流れ：45分

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点等 |
| 授業前日まで | ※心身の不調を抱えているなど、配慮の必要な児童生徒には、あらかじめ授業に参加できそうか確認し、必要な対応を行う。 |
| 導入３分 | １ 授業のねらいを確認する。皆さんは、誰かから相談を受けたことがありますか？ | 💡事前アンケートを実施して、その結果を活用することもできる。・相談を受けたとき、上手に対応できるようになってもらいたい願いを伝える。 |
| 展開１15分 | ２ ワーク１相談を受けるときのポイントに気づく。Ａ～Fさんの中で、相談を受けるのが上手だった人とその理由は？○個人で考え、ワークシートに記入する。（３分間）○班で意見を共有し、発表の準備をする。（３分間）○学級で意見を共有する。（５分間）（例）相談を受けたときのポイント・優しい言葉をかける　・共感する・話を聞こうとする　　・助言する・先生に相談することを協力する など | 💡イラストのやり取りを授業者や児童生徒が演じて、イメージを具体的にすることもできる。・正解、不正解があるものではないので、どのような意見も否定しないことを指導する。💡ＩＣＴ機器や黒板掲示できる用紙を活用して意見を共有することもできる。・児童生徒の意見から、ポイントが整理できるようにする。 |
| 展開２12分 | ３ ワーク２友だちから相談を受ける方法をロールプレイで練習する。○シナリオを黙読する。 | 💡ティームティーチングで授業者によるデモンストレーションを見せると、児童生徒が取り組みやすくなる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ・Ａさんの対応の中に、ワーク１で発見したポイントが含まれていることを確認する。○次の１～４を、役を交代して２回実施する。１.ペアで役を決める。２.ロールプレイを行う。（１分間）３.役を演じてどのような気持ちになったか、Ａさん役、Ｂさん役の順番で伝え合う。（２分間）４.学級で上記３を共有する。（３分間）○ペアで互いにお礼を言う。 | ・黒板表示「ロールプレイのポイント！」を提示して指導する。また、セリフは言いやすい言葉遣いに少し変えてよいことを伝える。💡３人グループで実施し、観察役を設定することで学びを深めることができる。💡ロールプレイ後に、Ａさん役の良かったところをＢさん役から伝えることで意欲を高めることもできる。・Ａさん役の表情や言い方によって、相談した人の気持ちが異なることを共有する。 |
| 展開３５分 | ４ 教材動画を観る。 | ・児童生徒を観察して、心配な様子が見られた場合はそっと声を掛ける。 |
| まとめ10分 | ５ ワーク３本時で学んだことを振り返る。友だちから相談を受けたとき、何を心がけますか？どう行動しますか？・個人で考え、ワークシートに記入する。（４分間）６ 授業者からの話（まとめ）を聞く。（３分間）・相談窓口一覧を受け取り、説明を聞く。・ワークシートを提出する。※可能であれば「相談に関する１分間アンケート」を実施し、児童生徒の実態を把握し、児童生徒理解やＳＯＳの声の確認に活用する。 | 💡ワーク３を班や学級で発表し合うこともできる。・授業のねらいを確認し、本時で発見したポイントを意識して、相談を受けてもらいたいと伝える。※いつも上手に相談に乗れるわけではないことを伝える（過去に上手く相談に乗れなかった児童生徒へのフォロー）。※友だちが悩んでいたら、大人に教えてほしいという願いを伝える。・ワークシートやアンケートは他の児童生徒から見られないように工夫して回収する。・授業後に全員分の記述を確認する。※必ず回収日のうちに内容を確認し、ＳＯＳの声が書かれているか確認する。 |